

アジア太平洋の人をつなぎ学びを育てる

# ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

# news

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 発行

特集

一目でわかるACCUの今  
400号の節目に最新の活動をご紹介します

— 人物交流事業 …… 4

— 教育協力事業 …… 7

— 模擬国連事業 …… 10

奈良世界遺産教室 …… 12

ESD活動支援センター …… 13

コラム「法人維持会員訪問記」 …… 14

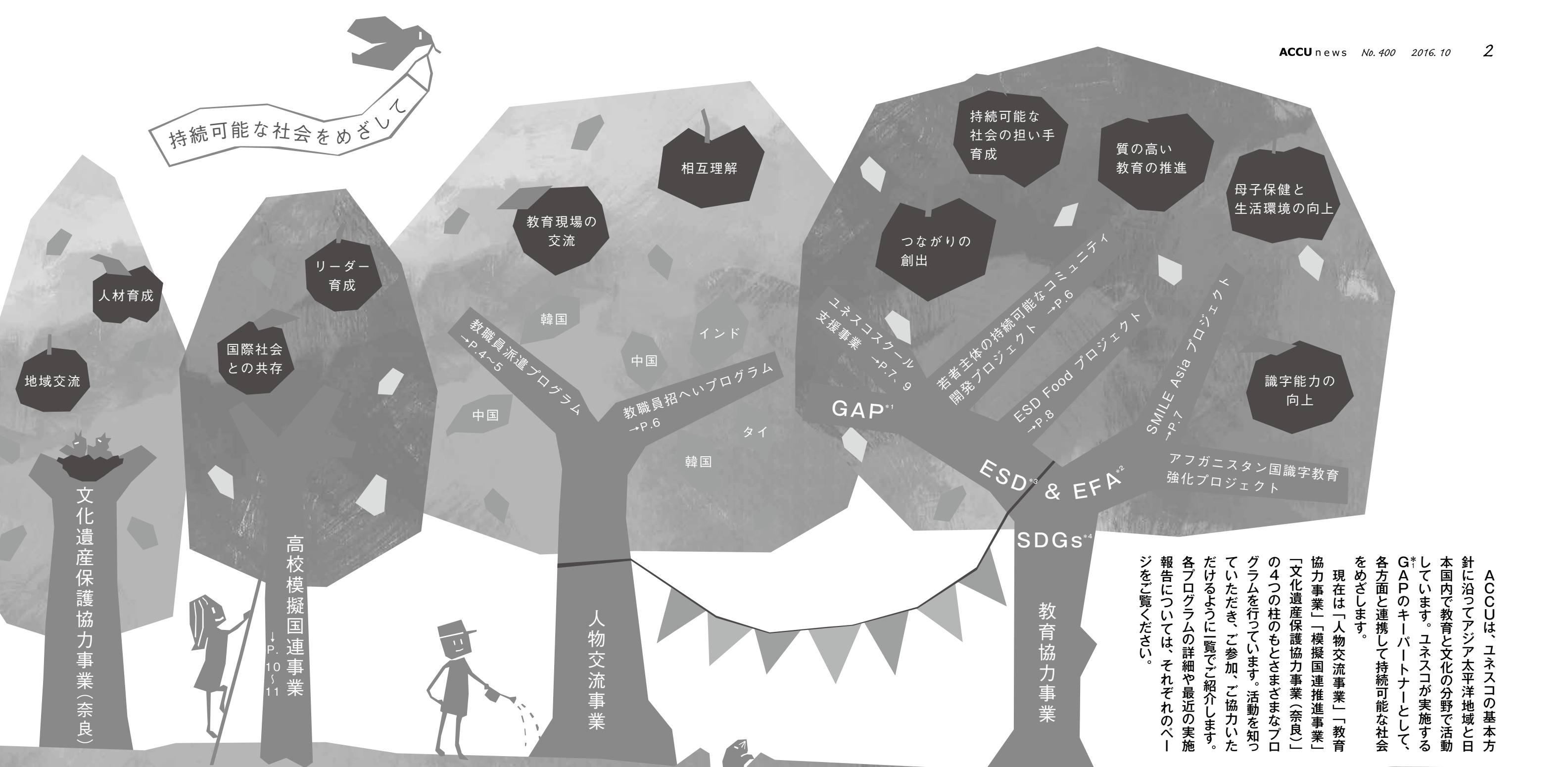
コラム「東奔西走」 …… 14

事業カレンダーと活動メモ …… 15



韓国の小学校で授業する日本人教員 (ACCU撮影)





ACCUは、ユネスコの基本方針に沿ってアジア太平洋地域と日本国内で教育と文化の分野で活動しています。ユネスコが実施するGAP<sup>\*1</sup>のキーパートナーとして、各方面と連携して持続可能な社会をめざします。

現在は「人物交流事業」「教育協力事業」「模擬国連推進事業」「文化遺産保護協力事業(奈良)」の4つの柱のもとさまざまなプログラムを行っています。活動を知っていただき、ご参加、ご協力いただけるようにご紹介いたします。各プログラムの詳細や最近の実施報告については、それぞれのページをご覧ください。

特集

# 一目でわかる ACCU の今

ACCUの活動に参加してみませんか？

広報活動  
ACCU ニュース  
ホームページ  
資料室 etc.

ユネスコとともに



2016年7月5、6日、ユネスコ・パリ本部でESD推進のための「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)のパートナーネットワーク会議が開かれ、世界からGAPを推進するユネスコのキーパートナーとなっている80以上の団体が一堂に会しました。

前回のGAP会議から1年2か月。会議1日目はこれまでの成果と課題、GAPメンバーとして「持続可能な開発目標」(SDGs)の4・7(ESDについて言及されている条項)へのコミットメントについて全体で議論しました。会議2日目は各優先分野ごとに分かれて今後の活動について検討しました。ACCUが所属するパートナーネットワーク2は「機関包括型アプローチ」を進めることが求められており、チーム全体での実践状況がわかるマトリクスの開発と実践のためのガイドブックの内容について話し合いました。

次の会議は2017年3月にカナダのオタワで開催予定です。

\* Whole Institution Approach (ホール・インスティテュション・アプローチ) / Whole School Approach (ホール・スクール・アプローチ)

\*1 GAP: グローバル・アクション・プログラム \*2 EFA: 万人のための教育 \*3 ESD: 持続可能な開発のための教育 \*4 SDGs: 持続可能な開発目標



# 教職員派遣プログラム

対象：教職員  
分野：国際交流  
期間：1週間

## 中国

訪問団25名は、中国政府の招へいにより6月12日～19日の8日間に渡り、北京市、上海市の他、中国

日本への教職員招へい事業と対をなすものとして、中国政府、韓国政府の招へいにより、日本の教職員が約1週間のプログラムで中国・韓国を訪問します。学校訪問や現地の教職員、児童・生徒との直接のふれあいを通して、互いに学びあい、先生自身の気づきを日本での教育に活かしていくことを目指します。本年度は、6月に中国、7月に韓国を訪問しました。

の西北エリアに位置する寧夏回族自治区銀川市を訪問しました。今回初めて中国を訪れる参加者もあり、北京に降り立ったときには、緊張した様子も見受けられました。

### 訪問団二行が見た中国

北京市から銀川市に移動した一行は、6月14日、銀川市第二十二小学校を訪問しました。5年生の授業参観では、豊中市立上野小学校の児童が作った鯉のぼりと、日本語と中国語の両方でも書かれた手紙が、参加教員の手によって同校の児童に手渡されました。大きな鯉のぼりが披露されると、児童からは大きな歓声

が上がリ、クラス代表の児童が手紙を読み上げ、クラスメイトに聞かせました。児童は終始興奮した様子で満面の笑みを浮かべ、遠く離れた日本と中国の児童が心を通わせる場面に立ち会うことができました。

その2日後に訪問した、寧夏特殊教育学校では、生徒が私たち訪問団に歌やアコーディオンの演奏を披露してくれました。訪問団がお礼に披露した中国民謡「茉莉花」と「さくらさくら」を歌い終えると、1人の盲目の生徒が興奮した様子で日本教職員に抱きつく一幕がありました。彼は、イギリスで開催されたピアノコンクールで入賞した経験があり、訪問団の伴奏を担当した声楽が専門の音楽教員をはじめとする訪問団と、音楽を通して心の交流をしたのでした。

帰国する頃には、訪問団もすっかり中国に慣れ、大満足の訪中となりました。

(人物交流部 有蘭 佳子)

### 大使館訪問での再会

帰国して40日、再び美声が聞こえてきました。7月29日に中国大使館胡志平公使参事官の招待によ

り、全国から16人の参加者が大使館を訪問しました。中国で何度も歌った思い出の曲、中国民謡の「茉莉花」を披露する訪問団。中国の子どもたちも一緒に口ずさみ、喜んでくれた有名な歌です。訪問団はきつと輝く笑顔の子どもたちを思い浮かべながら歌っていたことと思います。

訪中の話になると、今日帰国したかのように止まらないトーク。訪問団は、とても生き生きとしていました。そして別れるとき、「また集まろう」の言葉。中国で学び考え続けた1週間は、これから日本、中国、そして世界に広がる教育について、ともに考え、行動していく仲間との出会いとなりました。

(人物交流部 河口 枝里子)

## 韓国

韓国政府招へいにより、日本の教職員48名が韓国を訪れました。ソウルで学校を訪問後、2グループに分かれてそれぞれの地方に滞在し、最後に釜山に集合して報告会を行いました。今回は、地方受入れプログラムで訪れた慶尚北道・安東、仁川広域市での模様をお伝えします。

### Aグループ 慶尚北道安東へ

Aグループ25名は「韓国精神文化の首都」と称される慶尚北道安東市を訪問しました。ユネスコ世界文化遺産の安東河回村訪問時はこちら、学校訪問時にも安東市が伝

統を大事にしているようすが伝わってきました。

吉州小学校では、児童が重要無形文化財に指定されている河回仮面劇を披露しました。伝統をしっかりと継承するため、週に1度練習の場を設けているとのこと、子どもたちの素晴らしい舞台上に訪問団から拍手喝采が起りました。また、安東の食文化や農産物などについての掲示物が廊下のあちこちに展示され、地域に根ざした学校作りが行われていることを実感しました。

安東永明学校(特別支援学校)では施設内にクリーニング、機密文書の処理、カフェなど職業施設があり、そこが職業訓練の場や就職先となることでした。伝統継承以外だけでなく、様々なかたちで学校と地域、企業が結びついている安東市から多くのことを学んだ3日間となりました。

(人物交流部 齋藤 盛午)

### Bグループ 仁川広域市へ

Bグループの23名はソウルからほど近い仁川広域



窓に鈴なりになる生徒たち



河回仮面劇を披露する韓国児童



中国大使館訪問

#### DATA

プログラム名：  
韓国政府日本教職員  
招へいプログラム  
実施期間：2016年7月  
12日(火)～18日(月)  
参加人数：48名  
団長：  
北海道羅白町教育委員会  
自然環境教育主幹 金澤 裕司

#### DATA

プログラム名：  
中国政府日本教職員  
招へいプログラム  
実施期間：2016年6月  
12日(日)～19日(日)  
参加人数：25名  
団長：  
大牟田市立羽山台小学校  
校長 宮下 哲夫



## 教職員招へいプログラム

対象：学校・教育委員会  
分野：国際交流  
期間：1週間

様々な国の教職員が来日します

このACCUニュースが皆さまの手元に届くのはほぼ時期を同じくして「タイ教職員招へいプログラム」で来日したタイ教職員の方々がプログラムを終えて、タイへと帰国される



あなたの地域の学校に海外教職員を迎えませんか

教職員訪問の受入れにご協力くださる方々の存在を抜きにして、このプログラムを語ることはできません。

ACCUでは、年度ごとに海外教職員の訪問を受入れてくださる都道府県・市区町村の教育委員会を募集いたします。来年度のプログラムについては、実施が決定する冬頃に募集を行う予定です。様々な地域からの応募をお待ちしています。

## SMILE Asiaプロジェクト

よりよいサポートに向けて奔走中

母子保健をテーマにした識字教育支援、SMILE Asiaプロジェクト開始から今年10年目の節目の年になります。持続可能性を考慮しつつ、何を残し、何を变えていくのか、学習者のニーズにより応えられるプロジェクトとするために、新たなネットワーク強化に努めています。

カンボジアのSMILE Asiaプロジェクトは現地の協力団体カンボジア女性開発機関(CWDA)と緒に実施しています。CWDAならびにACCUはこれまでの事業を通して、カンボジア教育省ノンフォーマル教育局と数十年にわたって協力関係を築いていますが、他のNGOとの連携強化のために、CWDAが教育協力NGOコンソーシアム加盟に向けて、準備を進めています。



プロジェクト対象地域の保健所

もう一つの新たなネットワークは、プロジェクトに関わるステークホルダー間のつながりの強化です。CWDAの職員とともに、識字教室を実施する村の村長、行政職員、保健所の看護師を対象にワークショップを実施しました。地域の教育担当の行政官からは教材支援や識字教室の先生への技術面の支援、保健所からは識字教室に通う学習者で経済状況の良くない家庭は無料で検診が受けられるようにするなど、これまでになく協力を得ることができました。多方面の協力と支援を得て、プロジェクトを更にパワーアップしていきます。

## 人物交流事業 国際教育交流事業

対象：学校  
分野：国際交流

新しいパンフレットができました

国際教育交流事業の新しいパンフレットを作成しました。日本の先生が海外を訪問するプログラムと、海外の先生方を日本にお招きするプログラムを国ごとに紹介しています。パンフレットは日・英の2言語併記です。ご関心をお持ちの方は、ぜひ人物交流部(03332694498)までお問い合わせください!



## 若者主体の持続可能なコミュニティ開発

ファシリテータ養成にも力を入れます

2016年度は、各団体における若者活動実施のほか、各団体のファシリテータ養成のための国際

ワークショップの実施とファシリテータ用のプロジェクト・ガイドブックの開発を行なっています。ワークショップは5月にタイ・バンコクで開催され、10月には日本での開催が予定されています。

- 参加国と実施団体
- バキスタン Sanjh Preet Organization
  - バングラデシュ BRAC
  - フィリピン People's Initiative for Learning and community Development (PILCD)
  - インド Centre for Environmental Education (CEE)
  - インドネシア XL Future Leader Program

## ユネスコスクール 支援事業 ESD 推進のための研修

対象：教職員  
分野：ESD  
期間：1日

ESD実践のための研修を始めました

ACCUは本年度、平成28年3月に文部科学省・日本ユネスコ国内委員会より発行された「ESD推進の手引(初版)」を用いた研修を都道府県や市町村の教育委員会と連携して全国5か所で実施します。この手引の対象である教育委員会会の指導主事や学校で実践される学校管理職の方々に参加をよび

かけ、広くESDの推進に役立てていただきたいと考えています。

「持続可能な開発目標(SDGs)」で教育の向上が求められている今、ユネスコスクールに限らず、教育現場では持続可能な開発のための教育(ESD)への関心が高まってきています。教職員のESDに対する理解を深めたり、実践したりするための十分な時間が確保できない現状や、担当者異動による活動継続の難しさなど、共通の問題点を探り、解決策を見出せるような研修を行っていきます。またそれぞれの立場で実際に手引を用いた研修を行うときのヒントとなるような構成となっています。

研修の皮切りとなった東京(7月)と新潟(8月)の開催では、多くの方に参加いただき充実したものととなりました。今後の研修の申し込み方法や研修内容については、順次ACCUやユネスコスクールのホームページでお知らせしていきます。ご関心をお持ちの学校関係の皆様、どうぞお問い合わせください。

今後の開催予定

- ・静岡(10月・参加者公募なし)
- ・北海道(11月・公募有り(予定))
- ・福岡(2017年1月・公募有り(予定))



# ESD Food プロジェクト

対象：学校  
分野：国際協働学習

「食」から始まる学び

「食」は世界共通、人類の関心事。料理はもちろん食糧保全から気候



## ユネスコスクール支援事業 ESD 重点校 形成事業

対象：学校  
分野：ESD

輝け！サステイナブルスクール

国内各地の学校では、自由に様々なアプローチでESDに取り組んでいます。中でもユニークで魅力ある取り組みをしている学校を「重点校」と位置づけ、その活動を応援する事業が始まりました。

ACCUは本年度、教育を通じて持続可能な未来、社会を構築することを目標に、実践的な取り組みをおこなう意欲のある学校を公募、「サステイナブルスクール」とし

変動まで、様々な問題が提起できます。教室内に留まらず、地域や国内外の他の学校とも連携して、多様な学びをめざします。

ACCUは2011年よりアジア・太平洋地域のユネスコスクールとともに国際協働学習活動プロジェクトを実施しています。プロジェクトでは「お米」や「食」をテーマに、学校と地域が協働して教室内だけでなく多様な学びの機会を創出していくとともに、国内外の他の学校とも連携してお互いの学びを深めていきます。児童生徒だけでなく、大人も一緒に持続可能な未来について考え、実際に行動できるよう試行錯誤の日々が続いています。

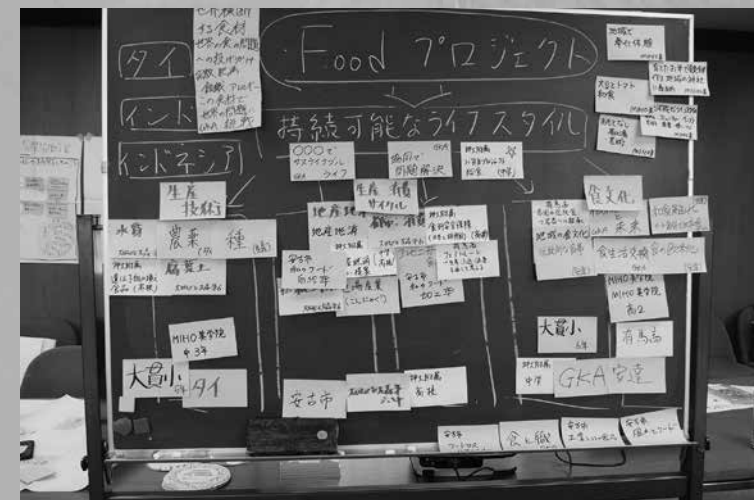
現在実施しているESD Food プロジェクトは、2015年にインドと日本の12の学校を対象に始まりました。「食」や「食を取り囲む状況」は、生物多様性・気候変動・食糧保全・食物消費や伝統料理などを含めた文化・社会・環境・経済と、様々な側面から考えることのできるテーマと考えています。

2016年のプロジェクトは主に3つの国際協働学習グループ(①生産技術グループ、②生産消費サイクル)を対象とします。ユネスコスクールであることは前提条件ではありませんが、全国的な活動の活性化を目的としているため、選定にあたっては地域バランスを考慮しました。6月から8月にかけて募集を行い、専門家による審査の結果、左記の学校が選ばれました。

今後、よりいっそう実践を充実させるために、研修会やワークショップ

### 全国のサステイナブルスクール

気仙沼市立南小学校	宮城県
気仙沼市立唐桑小学校	宮城県
登米市立米谷小学校	宮城県
江東区立八名川小学校	東京都
杉並区立西田小学校	東京都
目黒区立五本木小学校	東京都
横浜市立永田台小学校	神奈川県
新居浜市立惣開小学校	愛媛県
阿南市立桑野小学校	徳島県
大牟田市立吉野小学校	福岡県
石巻市立牡鹿中学校	宮城県
大田区立大森第六中学校	東京都
名古屋国際中学校・高等学校	愛知県
福山市立福山中・高等学校	広島県
静岡県立下田高等学校 南伊豆分校	静岡県
広島県立安古市高等学校	広島県
愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県
独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校	福島県
千葉県立桜が丘特別支援学校	千葉県
愛知県立みあい特別支援学校	愛知県
NPO法人 東京賢治の学校 東京賢治シュタイナー学校	東京都
特定非営利活動法人 横浜シュタイナー学園	神奈川県
特定非営利活動法人 京田辺シュタイナー学校	京都府
NPO法人 箕面こどもの森学園	大阪府



ルグループ、③食文化グループ)に分かれ活動を展開していきます。

6月に日本の参加校の先生方を対象に東京でワークショップを開催し、昨年度の反省として、「自分の学校の活動はいろいろとできたが、海外を含む他校の生徒との学び合いが不十分であった」とも問題解決型のプロジェクトを行ないたい」という熱い想いを共有しました。

海外からは昨年引き続きインドの学校、今年よりタイ、インドネシアの学校が新たに参加しています。



ESD (Education for Sustainable Development) とは持続可能な未来をつくる教育のことです。

重点校形成事業とは、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組をおこなう学校を公募・選定し、その取組を支援するために必要な支援をする事業です。

「本事業では、重点校を「サステイナブルスクール」と呼びます。

公募期間： 2016年6月27日(月)～8月18日(木) 17:00必着

文部科学省委託  
平成28年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業

**ESD重点校形成事業**  
～輝け！サステイナブルスクール～

主催：文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

6月にはタイで各国のプロジェクトのコーディネーションをする団体とワークショップを行いました。どの団体もプロジェクトの意義を評価し、実施に前向きな対応でした。11月には各国のコーディネーターや先生方を招いて国際ワークショップを開催する予定です。日本の学校を訪問したり、国際協働学習プロジェクトの内容について検討したり、参加者が学び合える機会となります。

関心をお持ちの先生方、ぜひACCUにご連絡ください。

各国コーディネーター団体: タイ Thai Education Foundation, インド Centre for Environment Education, インドネシア Indonesian National Commission for UNESCO





# 高校模擬国連

対象：高校生  
分野：国際交流

## 大きく羽ばたく 高校生大使たち

高校生が各国の大使に扮して、国連本部の議場さながらの議論を行う高校模擬国連。2007年に始まり今年でちょうど10年目を迎えるこの活動を、ACCUが共同主催者として支えるようになったのは2012年国際大会への派遣事業が始まりでした。今回は、事業の運営スタッフにもスポットを当てつつ、高校模擬国連活動の流れをご紹介します。

第1回はわずか26校28チーム(2人1組)から始まった高校模擬国連も、昨年度の第9回大会では応募

2016年11月12日、13日に国際連合大学で開催する第10回全日本高校模擬国連大会には137校202チームの応募があり、日本語・英語の課題論文審査で選ばれた約90チーム180人が参加します。今回の課題は、作成を担当した大学生スタッフも懸念するくらいレベルの高い内容でしたが、それでも例年同様多数の応募がありました。

### 「新大会」を開催予定です。

ACCUと全国中高教育模擬国連研究会は共催で、「高校生の高校生による高校生のための大会」というキャッチコピーのもと、より多くの高校生が参加できる大会(通称:新大会)の開催を予定しています。

大会名:全国高校教育模擬国連大会  
日時:2017年8月7日-8日  
場所:国立オリンピック記念青少年総合センター  
参加費:1名につき3000円  
使用言語:日本語

応募:来春4月開始予定(詳細はACCUウェブサイト上で発表します)  
当日は、約700人を収容できる会場でたくさんの方の参加をお待ちしています。新大会は誰でも参加できる入門型の大会のため、初めて模擬国連にチャレンジしようとしている高校生や、全日本大会への出場に向けて練習を重ねたい高校生も大歓迎です。また、当日お手伝いして下さる方も募集しています。模擬国連の楽しさをより多くの人に伝えたい高校生や大学生、教員の先生方はぜひ下記までお問い合わせください。新大会への参加や全模研の入会にご興味のある方も、お問い合わせをお待ちしております。

お問い合わせ  
公文国際学園SGH担当 米山 宏 jone\_yokosuka@hotmail.com

チーム数が初めて200を超えるまでに成長しました。今後ますます全国に活動の輪が広がっていくことが期待されます。高校生は夏休みを利用して、7月初めにウェブサイトで公開される書類選考課題に取り組み、さまざまな資料を集めながら研究を進め、10月の全日本大会への出場を目指します。

国公立の学校からの応募も年々増えており、模擬国連活動を始めたがどうすればいいのか?と頭を悩ます先生たちを対象に、「全国中高教育模擬国連研究会」という研究グループが昨年3月に発足しました。応募者が増加傾向にある一方で、書類選考を経て出場できるチームの倍率も高くなり、新しい参加校にとってはハードルが高く感じられるかもしれません。そんな不安を取り除き、より多くの高校生に模擬国連の現場を体験してもらうべく、ACCUでは「全国中高教育模擬国連研究会」と協力して、来年から事前の選考なしの先着順で誰でも参加できるような新たな形の模擬国連大会の企画を始めています。

今年、日本の国連加盟60周年という記念すべき年でもあり、本事業

全日本大会の議題は「サイバー空間」で出場チームは割り当てられた国の大使としてその国の国益を考へながら準備を進め、当日の論戦に臨むこととなります。選ばれた高校生たちには実際に会えるのが楽しみです。当日は見学も可能です。詳細はグローバル・クラスルーム日本委員会のホームページをご覧ください。

業もその記念事業に認定されました。ACCUは、共同主催団体として、大会の事務局サポートや、協賛企業の皆様との橋渡しに今後も

### 次の10年へ 向け展望は? JCGC\*2の3人に 伺いました

理事長 齋藤 優香子さん  
(慶應義塾大学法学部3年)  
模擬国連の魅力は「一生の仲間ができる」というところに大きくあると思います。本気の議論をする中で、お互いのことを尊敬し合い、切磋琢磨できる関係を楽しめるこの活動の事を知らない高校生がまだまだ多いのが現状です。10年後は、甲子園のように日本中の高校生に知れ渡り、全国の学校の授業でも当たり前のように取り上げられるような活動になることを願っています。

研究主任 神保 真宏さん  
(東京大学経済学部3年)  
会議を組み立てる役割を担っているため、大使同士がどのようにお互いの意見を認め合い、よりよい解決を見出していくかというプロセスに醍醐味を感じています。まだ模擬国連を経験したことのない高校生がこの醍醐味を味わえるよう、今より多くの会議を提供できるようにしたいです。

広報局長 馬欠場 直人さん  
(慶應義塾大学経済学部3年)  
現在、広報局長として模擬国連のことをたくさんの方に伝えるはたらきをしていますが、まさにその「伝える」ということは高校模擬国連の基本中の基本です。それを全国から一堂に会した優秀な高校生達同士で繰り広げる全日本大会ですが、今後はその前哨戦なる地方大会が生まれるほど、全国的に広まっていくようになります。広報に力を入れていきたいと思っています。



努めていきます。この活動は皆様からのご支援で実施しています。ご寄附によるサポートを引き続きお願いいたします。

こちらのQRコードを読み取ると、2015年5月の高校模擬国連国際大会の様子をご覧いただけます。



模擬国連へのご寄附:ゆうちょ銀行口座:00100-9-118021  
口座名義:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター  
※「高校模擬国連事業」とご明記ください。

徳永理華さん  
(慶應義塾大学2年 2013年の全日本大会で優秀賞を受賞、2014年国際大会に参加)  
Q 模擬国連を通して得たものは?  
A 小学校から12年間一貫校で育った私にとって、模擬国連は初めての校外活動で、視野が広がり、大変刺激を受けました。その時出会った仲間とは今でも時々会うほどのつながりとなりました。  
Q 国際大会と全日本大会で感じた違いとは何ですか?  
A さまざまな国からの参加者がいる国際大会では、参加者ひとりひとりの価値観や思考プロセスから違うということに衝撃を受けましたが、多様な意見をみんなでひとつにまとめていく過程はとてもおもしろいと感じました。  
Q 将来はどんな事をしたいですか?  
A 模擬国連を通して、政策や会議といった目には見えないものを創り上げていく活動が好き自分に気づきました。今大学で学んでいる法律の勉強も活かしながら、人と人、ものともものをつなぐ架け橋になりたいと思います。

### 模擬国連で 得たものは? ACCUのボランティア スタッフより

\* URL: http://jcgcc.accu.or.jp/

\*1 「全国中高教育模擬国連研究会(全模研)」:事例研究や情報交換などを重ね、模擬国連を中学高校の教育現場で活用する方法を考える教員が構成する任意の研究会。  
\*2 グローバル・クラスルーム日本委員会(JCGC):首都圏の大学に通う学生達からなる団体。高校生の時に模擬国連に出会い、全日本大会で派遣団として渡米した経験を持つ学生もいれば、大学生になってから模擬国連活動を始め、それと平行する形で高校生に模擬国連のおもしろさを伝える運営側としての活動をしている学生など、バックグラウンドはさまざま。



# 世界遺産は人類の宝物

ACCU奈良事務所では人材育成のための研修や国際会議、海外でのワークショップ等を通じた交流、情報収集や発信を行い、文化遺産保護に協力しています。いろいろな事業の中から「世界遺産教室」をご紹介します。

奈良事務所 研修事業部長 中井 公

## 魅力的な講師がおくる 出前授業とは？

奈良事務所では、県内の高校生を対象に、「世界遺産教室」という出前授業を実施しています。事業開始から12年になりますが、年々

重なる間に開催の要望が増え、今年10校で開催する予定です。加えて今年からはじめて、各校で教鞭をとる先生方のための「世界遺産教室」を新規開講したところです。

講師は、フリーアナウンサーの久保美智代さん、通訳の小野以秩子さんです。お二人とも仕事の傍ら、毎年いくつもの世界遺産を巡ってきた、自他ともに認める「世界遺産オタク」。久保さんは、これまでに訪問した世界遺産の数400か所の大記録が目前です。本誌400号発行の頃には達成しているかも知れません。

## おもしろく楽しく そして深く

「世界遺産教室」では、条約の成り立ちや仕組み、その意義などにつ

いて学びます。講師自ら撮った映像をふんだんに使い、「おもしろゼミナール」と銘打ったクイズ形式の手法も交え、楽しみながら学ぶ工夫が随所にちりばめられています。

同時に受講生たちは、今も戦争や自然災害など危機に直面する遺産があることや、戦争や奴隷貿易などに関係する「負の遺産」があることについても、深く知る機会をもちます。芸術的価値が高い歴史建造物や美しい自然だけでなく、これら全ての遺産が「人類全体の宝物」であることの意味を学ぶ生徒たちのまなざしは真剣です。

昨年から、受講生の学年や専攻に応じて、討議の時間を設けるなどの工夫を試みています。これからの遺産保護を担う若い世代の皆さんに、より一層の興味を持って欲しいと願うからです。

奈良県立奈良朱雀高校にて、小野以秩子さんの授業



片や、先生方が寄せる関心も、生徒に引けを取りません。県内各校で地歴科を担当する26名が校務の合間をぬって、先生方のための「教室」に参集しました。

皆さんからは、率直な感想をたくさん頂戴しました。なかに「遺産の紹介に止まらず、世界遺産を通じて『心の中に平和の砦を築く』というメッセージが明確に伝わってきた」とありました。この企画への確かな手応えを感じたところです。

# ESD活動支援センター 始動!

特定非営利活動法人  
持続可能な開発のための教育推進会議\*  
(ESD-J)  
代表理事 阿部 治



ウェブサイトでは政府のESD推進施策や助成金、様々な主体が提供しているアワード・表彰、研修・交流、教材・資料、海外の動き等の情報を発信。  
<http://esdcenter.jp/>

2016年4月22日、「ESD活動支援センター開設について」を文部科学省と環境省が同時記者発表しました。これは2014年11月に開催された「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関するユネスコ世界会議「等の成果をふまえ、両省が官民協働の仕組みとしてスタートさせたものです。ESD-Jは世界会議開催後の国内のESD推進に向けた幾つかの提案を政府に対して行ってきましたが、本センターはこれらの二つであり、多くの方々のご協力で実現したものです。

ESD活動支援センターの目的は、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様なステークホルダーが、地域での取組を核として、様々なレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進するための全国的なネットワークのハブ機能の役割を担うことです。具体的には、全国8か所に設置が予定されているブロック単位の「地方ESD活動支援センター」と連携して、ESDの10年で全国各地に生まれた様々なESD実践団体や支援組織が、情報を共有し、交流して学びあい、

ESDを広げ深めるためにサポートし合う、地域レベル、広域レベル、全国レベルといった重層的なネットワークを形成していきます。そしてそのネットワークがESDの魅力発信し、新たにESDに取り組みたいと考える主体を増やし、支援し、ESDを広げていくのです。

このセンターは、ESD-JとACCUが共同で運営を受託しています。様々な分野で強みにESDを推進してきたACCUと連携して本事業に取り組むことを非常に心強く思っています。

地域創生や国連SDGs\*など国内外で直面している課題は、まさに人づくりの問題であり、ESDの課題です。このためESD活動支援センターには大きな期待が寄せられています。これらの期待に応えるべく、まずは、全国と地方のセンターが多様なステークホルダーと協働し、ESDを推進していくための仕組みの基礎をしっかりと作り、さらに大きく成長させていきたいというのが関係者一同の切なる願いです。ご支援のほどよろしく申し上げます。



オープニング式典には、多様な立場(NPO、企業、自治体、政府、国会議員など)の人が集まった。

\*ESD-Jは、ESDの10年を政府と共に国連に共同提案した個人や団体を中心となり、ESD推進を目的に2003年に発足したネットワーク組織。ESDに熱心に取り組むNPO/NGOや企業、行政等とともに、これまで政策提言や市民社会と行政、企業等をつなぐ様々なプロジェクトやフォーラム等を実施してきた。



事業カレンダー (2016年8月現在・予定)

2月	1月	12月	11月	10月	9月
<ul style="list-style-type: none"> <li>ユネスコスクール年次アンケート会合 2/3(金)</li> <li>ESD Food プロジェクト+ESD 先進重点校事業 活動成果共有会</li> <li>アフガニスタン識字教育強化プロジェクト(インド)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国教職員招へいプログラム 1/17(火)~23日(月)</li> <li>ユネスコスクール事業推進委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化遺産保護に関する国際会議 12/13(火)~15(木)</li> <li>ASP Uninet 連絡会議 12/4(日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ASP Uninet 運営委員会 11/6(日)</li> <li>インド教職員招へいプログラム 11/6(日)~13(日)</li> <li>中国教職員招へいプログラム① 11/7(月)~13(日)</li> <li>文化遺産保護に関する個別テーマ研修 11/8(火)~12/6(火)</li> <li>世界遺産教室 11/10(木)~21(月)・25(金)</li> <li>第10回全日本高校模倣国連大会 11/12(土)~13(日)</li> <li>ESD Food プロジェクト 国際ワークショップ 11/17(木)~19(土)</li> <li>地域間ユネスコスクールネットワーク強化会議 11/19(土)~20(日)</li> <li>文化遺産保護に関する国際セミナー(奈良) 11/23(水)</li> <li>中国教職員招へいプログラム② 11/28(月)~12/4(日)</li> <li>アフガニスタン識字教育強化プロジェクト(インド)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産教室 10/4(火)~17(月)</li> <li>「ESD推進の手引」研修 in 静岡県 10/7(金)</li> <li>文化遺産ワークショップ(ソウル) 10/10(月)~15(土)</li> <li>タイ教職員招へいプログラム 10/4(火)~10(月)</li> <li>第2回若者プロジェクト国際委員会とワークショップ(東京) 10/12(水)~14(金)</li> <li>アフガニスタン識字教育強化プロジェクト(インド)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD重点校形成事業参加校選定会議 9/3(土)</li> <li>文化遺産保護に関する集団研修 8/30(火)~9/29(木)</li> <li>ユネスコスクール事業推進委員会 9/7(水)</li> <li>ユネスコスクール年次アンケート会合 9/15(木)</li> <li>世界遺産教室 9/20(火)</li> <li>ESD重点校形成事業 校長・教員研修会 9/22(木)</li> <li>国際識字アライメント 9/30(金)</li> </ul>

AGCU 活動メモ 2016年6月~8月

①実施期間 ②主催、共催団体名 ③開催場所 ④参加国、参加者数

ESD Food プロジェクト  
日本参加校教員対象ワークショップ

日本を含む4か国23校が参加する“食をテーマにした国際協働学習プロジェクト”。関係者を対象にワークショップを実施。

- ◇日本参加校教員：①6月3日(金)、4日(土)
- ②文部科学省、ACCU ③日本出版会館 ④14名
- ◇各国プロジェクトコーディネーター：①6月8日(水)、9日(木) ②文部科学省、ACCU ③タイ王国 ④3か国7名

SMILE Asia プロジェクト  
ワークショップとモニタリング

- ①6月12日(日)~18日(土) ②ACCU ③カンボジア王国

中国政府日本教職員招へいプログラム

- 詳細…P4
- ①6月12日(日)~19日(日) ②国際連合大学、中国教育部、ACCU ③中国(北京市、寧夏回族自治区、上海市) ④25名

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク  
評価会議/連絡会議

ユネスコスクール加盟校ならびに検討校を支援する大学のネットワーク(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)の昨年度の活動の評価と今年度の取組みの共有。ACCUは平成27年度から事務局を担っている。

- ①6月26日(日) ②文部科学省、ACCU ③日本出版会館 ④32名

高校模倣国連 派遣報告会

米国で開催された「高校模倣国連国際大会」に日本代表団として参加した6校12名の高校生による報告会。詳細…P10

- ①6月26日(日) ②グローバル・クラスルーム日本委員会、ACCU ③日本出版会館 ④130名

JICA 地球ひろば設立 10周年記念企画  
展開連セミナー

「アフガニスタンの識字教育、初等教育改善のために」と題したセミナーに職員を講師として派遣。

- ①6月28日(火) ②JICA地球ひろば ③JICA市ヶ谷ビル ④70名

ユネスコパリ本部  
GAP Partner Network 会議

- ①7月5日(火)~6日(水) ②ユネスコパリ本部 ③フランス(パリ) ④80以上のキーパートナー団体

韓国政府日本教職員招へいプログラム

- 詳細…P5
- ①7月12日(火)~18日(月) ②国際連合大学、韓国ユネスコ国内委員会、ACCU ③韓国(ソウル、慶尚北道・仁川広域市、釜山) ④48名

JICA 「アフガニスタン識字教育強化プロジェクトフェーズ2」

プロジェクトの進捗状況と今後の計画の確認のため、インドにアフガニスタンの識字局職員7名とプロジェクト職員2名を招へいし会議を行った。ACCUより職員1名を派遣。

- ①7月21日~8月13日 ②JICA ③インド(デリー) ④9名

「ESD推進の手引」を活用した研修 in 東京

文部科学省・日本ユネスコ国内委員会より発行された「ESD推進の手引(初版)」を用いた研修を東京都教育委員会と連携し、実施。詳細…P7

- ①7月25日(月) ②文部科学省、ACCU ③日本出版会館 ④47名

「ESD推進の手引」を活用した研修 in 新潟

- ①8月1日(月) ②ACCU ③見附市文化ホール アルカディア小ホール(新潟県見附市) ④44名

奈良 世界遺産教室

- ACCU奈良事務所主催の文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらう出前授業。初の試みで、地理・歴史の教員を対象に実施。詳細…P12
- ◇①6月2日(木) ③奈良県立教育研究所(教員対象) ④26名
- ◇①6月20日(月) ③奈良県立奈良朱雀高校(生徒対象) ④37名



事業

社会貢献

「栄養と美味しさ」と「途上国支援」の両立

お話を伺った方: 栗脇 啓氏 (CSR部シニアマネージャー)

味の素グループは創業以来、事業を通じて社会的課題の解決に貢献する取り組みを続けてこられた企業です。食をテーマにしたACCUの教育プログラムについて説明させていただいたことを機に会員としてご支援いただいています。

社名になっている調味料の「味の素」は昆布だしから生まれたグルタミン酸、「うま味」成分ですが、この「うま味」は最近の研究で人類共通の基本味の一つに加えられました。国際語にもなっています。

味の素グループにとって社会貢献活動は事業と別物ではなく、現在は、「社会にとっての重要度」と「事業にとっての重要度」の両方が高い分野を抽出、整理



味の素の知見を活かすベトナム学校給食プロジェクト

した結果、「不足・過剰栄養」等を改善すべき重要な問題として活動の方針とされているそうです。

アジアの活動では、ベトナムの学校給食プロジェクトにつ

て伺いました。国と地域行政、諸機関と連携して栄養バランスのよい学校給食の普及をめざすもので、味の素は献立作成やシステムの開発等で協力されています。児童の栄養状況改善という社会貢献が同時に調味料などの商品の利用という事業につながるというお話は、まさに持続可能な社会貢献のモデルだと思いました。

また、長期的視点で途上国の食・栄養分野の課題解決に役立つプログラム実施団体の活動も支援されています。社内外の理解と共感を深めるために現地プロジェクトの視察を行い動画により臨場感の共有を図り、短期間では見えにくい効果の「見える化」のために健康診断を行って数字で記録する等の工夫をされていると伺いました。

味の素は、SGDs(持続可能な開発目標)のNo.2「飢餓の撲滅・栄養改善」を中心に教育等の目標との関連を意識して活動を進められています。「プロジェクトの実施には対象地域関係者の協力が不可欠であること」、「終了後の波及も考慮して効果の拡大をめざす」など、ACCUの事業との共通の話題も多く、大変参考になるお話を伺うことができました。

Eat Well, Live Well. AJINOMOTO.

ACCU: 進藤 由美(教育協力部・人物交流部部長)、土井 みどり(総務部)

アジア  
東奔西走  
第10回

南インド・シャクティ  
センターの教育活動

恵泉女子大学・聖心女子大学 非常勤講師  
スリッティアンジャリ舞踊団代表  
黒川 妙子(元ACCU職員)



「円をつくって踊るのは、人はみな平等であるという人間的な価値を教えるもの」というシスターチャンドラ(シャクティセンター\*1創業者)の言葉が胸に響く。南インド・タミルナード州のディンディガル市で、不可触民とされ学校教育を続けることもままならぬ少女たちを、25年間にわたって一緒に生活しながら訓練し、地域のリーダーとして送り出してきた人だ。その言葉は、行動と深い愛情に満ちている。芸術や芸能こそが、人間に普遍的な価値を教えてくれるという経験と確信のもとに、すたれつつあったタミル民俗芸能をあえて学び、舞台上で上演できるまでに磨きあげ、少女たちがこれを踊り、歌う。社会で声をあげる術のないダリット\*2、しかも女性の声の代弁者として、差別に固執する頑なな人々に対してでさえも、ある時は強烈に、ある時にはやさしく訴えかける。これが差別で傷ついた少女たち自身の心を癒し、自分を肯定し自信を回

復することにもなる。こうした舞台活動から得る収入で、貧しい子どもたちのための大規模なキャンプや村の補習センターの経営、そのほか周辺の村のための様々な社会的プロジェクトの費用がまかなわれているというユニークだ。

筆者は1999年以来シャクティセンターの活動を応援し、同時に太鼓舞踊パライアタム(上写真)等も教えてもらっている。2015年には日本で黛日本民族舞踊団、韓国のユンスマ舞踊団との三者合同公演が実現した。本年10月には、韓国の太鼓芸能ソルチャングの講習がシャクティセンターで行われる。ダリットの少女たちがインドの農村で韓国の農楽を踊るとどのようになるか楽しみだ。

\*1 シャクティセンター http://www.sakthifolk.org/

\*2 ダリット:インドのカースト制度の最下層で不可触民とされてきた人々が自らを呼ぶ呼称